

# 中学校国語科 指導の充実3STEP!!

～「全国学力・学習状況調査」の分析結果より～



## STEP1

## 生徒の学びの実態把握

### 全体的な傾向

全ての設問の正答率で、全国比を上回った。例年課題の見られる自分の考えを書く設問や記述式の設問についても、高い正答率の設問が見られた。

	平均正答率
本県	66
全国	64.6



### 成果の見られた問題①とその要因

正答率(全国比較) 設問

46.9 (+6.6) 4三

#### <問題の概要>

「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する

「敬語」についての設問は、正答率の全国比が平成30年度-0.3、平成29年度-0.9であったが、今年度は高いポイントを示した。設問は、生活場面と結び付けた形式での出題である。相手や場に応じて適切に敬語を使うことについて、生活場面と結び付けて指導できていると考えられる。引き続き、生活場面と結び付けた授業を推進したい。

### 成果の見られた問題②とその要因

正答率(全国比較) 設問

76.5 (+2.0) 2二

#### <問題の概要>

意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く

「自分の考えを書く」設問では、正答率の全国比が平成29年度-4.0、令和元年度+1.6であった。今年度の正答率も全国より高い数値であった。令和2年度解説動画でも重点として示した内容である。文章を書く学習では、構成や展開の工夫について着目し、観点に沿ってお互いの文章を読み合い、自分の考えを伝え合う学習活動が行われていると考えられる。

### 課題の見られた問題①とその要因

正答率(全国比較) 設問

26.7 (+1.9) 2一

#### <問題の概要>

意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する

全国比は上回ったが、正答率が低い設問である。選択式の設問であるが、設問の条件に沿って解答することができていない生徒が33%であった。自分の考えを書くことはできるようになっているが、読み手の立場に立って、文章を整えること(ふさわしい語句や文の使い方、意図が伝わるような記述の仕方、段落の関係を考えた記述の仕方)ができていない。

### 課題の見られた問題②とその要因

正答率(全国比較) 設問

21.9 (+1.4) 3四

#### <問題の趣旨・内容>

「我輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く

文学的文章のものの見方や考え方が表れている部分を明確に読み取ることに課題がある。記述式の設問で、複数の条件に従って解答できていない。設問の二つの条件のうち、条件①「引用を用いる」の誤答が46%であり、本文中から適切に引用することに課題が見られた。

改善については裏面へ

## STEP2

# 更なる学びの充実のための授業改善

### 課題の見られた問題①について

課題の見られた問題を解くのに、どのような力を付けたいの？

問題と関係する指導事項を見てみましょう。

第2学年 [B 書くこと] エ  
読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。

「推敲」について課題があるな。

どのような授業をすればいいの？

身に付けたい力を明確にし、指導事項にかかわる言語活動を工夫した授業をしましょう。

〔言語活動例〕

ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。

お世話になった相手に連絡・報告をしたり、お礼を伝えたりする文章を書く学習を設定してみよう。

◇読み手の立場に立って文章を整えたり、表現の効果を確認めたりすることができるように、目的や相手を明確にしましょう。

◇意見文の下書きについて交流する場面においては、目的や相手にあった表現になっているか、根拠の明確さ、文章の構成や材料の活用の仕方、表現の仕方（主述の関係、係り受け、語順…）など、観点を明確に示しましょう。

◇他者からの意見を取り入れる際は、自分の考えをよりよく伝えるために有効かどうかを再考させることが大切です。

ICTを使うと推敲の前と後で、観点到に沿った直しができているか確認できそうだ。

結果が返ってきた調査の結果について、生徒と何を確認すればいいの？

解説動画が参考になります。調査問題の振り返りや授業の中で活用しましょう。

◇解説動画の「振り返り」で確認しているように、自分の考えを書く際には、読み手が分かりやすい文章にするという視点から、具体的な観点をもちて推敲を行えるようにしましょう。（動画参照7分50秒～12分10秒）

下書きした文章の推敲の視点を示すときにも動画が使えるのだ。

動画リンク



### 課題の見られた問題②について

第1学年 [C 読むこと] オ  
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。

「考えの形成」は、どの領域でも重要ね。

〔言語活動例〕

イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

引用は、「話す・聞く」学習や「書く」学習でも使えるわね。

◇引用の意図や目的を踏まえた上で、必要な部分を読み取り、それに対する自分の考えをまとめることが大切です。

◇日常から文章で書かれていることをそのまま受け入れるのではなく、自分の知識や経験と照らし合わせて判断させたり、登場人物との考え方の違いを確認させたりするなど、文章を吟味・検討しながら読ませることで、自分の考えを豊にすることができます。

◇日々の読書で気に入った文章や、心に響いた表現をメモし、それに対する自分の考えをまとめる活動に取り組ませましょう。

業前・業間の帯活動の時間や、家庭学習でも取り入れられそうだな。

◇設問四の「条件1と条件2」の解説の部分を視聴し、適切な引用の仕方について確認することで、条件に合った書き方を理解させることができます。

他の文学作品でも、本文を引用して自分の考えを表現するような活動を設定してみよう。

（動画参照8分20秒～14分00秒）

動画リンク



## STEP3

# 他学年の授業改善

〔校内研修・教科部会では〕

○自校の結果を分析した後、解説動画を校内研修や教科部会で先生方が視聴することで、今後の授業改善のヒントになります。解説動画の授業への取り入れ方も検討し、学年の系統性を生かした指導を行いましょう。

〔授業では〕

- 普段の授業において繰り返し指導していること（自分の考えを書く、考えの根拠を示すなど）は正答率も高く、定着しています。特に定着させたい指導事項については、学年を超えて系統的に指導していくことが効果的です。
- 国語で学習した既習事項を、他教科等の授業や日常生活においても活用できるようにしましょう。